

シン経済教育
～元中学教員からのコメント～
河原 和之

10分程度のお話し

- 0 自己紹介なし（案内を参照）
- 1 **篠原基調**から
シン経済教育！何が「シン」なのか
- 2 **佐藤提案**を授業化する
- 3 **新井提案**を意味づける

篠原基調から

シン経済教育！何が「シン」なのかを考える

- ・20年前、21歳になった卒業生

「先生、やっと経済の見方・考え方がわかるようになりました」

私「????????」

「具体から抽象」「日常生活から科学の世界」、
「みえるモノから見えないモノへ」という授業は
以前からあったが・・単発でつながりがない

河原和之・泉美智子「15歳からの経済入門」

日経ビジネス文庫 2012年

中学生5人が日々の暮らしで体験した、簡単そうだけど、実はよくわからない「アレッ?」「ウソッ?」「ホント?」な疑問から「経済」のしくみがわかる

- ただの紙切れで、なぜ買える? (貨幣)
- 借金した弟が得をする不思議 (インフレ)
- 山のジュースは上になるほど高い (値段)
- タダの雑誌がなぜつくれるか (広告)
- ビールを飲むことは税金を払うこと (税金)
- なぜコンビニで薬が買えるのか (規制緩和)
- 景気が悪いのは誰のせい? (政府の役割)
- 実力社会はうれしい? 悲しい? (終身雇用と年功序列) 全29項目

つながりがキーワード

- ・ 経済観（見方・考え方）がクリア
希少性→機会費用→分業と交換→つながり
→信頼→効率と公正
- ・ すべての事象を「効率」（ケンジ）「公正」（アカリ）から考察する→ウォームな感性とクールな頭脳
- ・ 「経済学として誠実＋教室で使える」
- ・ 教師は、落としどころ、見通しをもちつつ
「交通整理」

私の考えを変えた視点

あたりまえを問い深める

- ・信頼は個人ではなく、**制度や仕組み**が支えている
- ・競争は価格やサービスをよくするが、競争を維持する**ルール**がないと選択肢を狭める
- ・**情報の非対称性**から消費者保護
- ・市場だけでは難しいが**政府がやれば**いいというわけではない

佐藤提案を授業化する

暮らしから問い、仕組みを理解し、社会の在り方を考察

4つの基盤を「コンビニ」を通して考える

<仕組み>

- ・ 3000アイテムをどう選択（効率） みんなが買物できる工夫（公正）
- ・ **市場基盤** 価格競争はあるのか？（スタバ 吉野家 ダイソー）
労働者の人数は？
- ・ **インフラ基盤** 高速道路 配送（70台から7台）ドミナント POSシステム
- ・ **人間生活基盤** 安全 災害対応 ATM
- ・ **経済社会基盤**
 - ・ 独占禁止法違反をめぐり年中無休・24時間営業
 - 必要以上の仕入数量を強制する
 - ・ 大店法で規制を受けた大資本の企業である
 - イトーヨーカドー、ダイエー、西友がコンビニを操業
 - 容器リサイクル法

コンビニを通して＜社会の在り方＞を問う

＜議論＞ 24時間営業は続けるべきか

＜発信＞ 未来型コンビニの開発

- 太陽光発電による店舗
- 「ポリスボックス」を隣に設置
- 障がい者に配慮した完全バリアフリー
- ストレスを発散するためにパンチができる
- 運動不足解消のためにジム用品が設置
- 高血圧の人のための血圧計や商品を激選
- 中高年用レトロコンビニ

生活実感から経済の仕組みへ

2 「得意なことに集中」だけではなく低賃金労働や環境負荷も

「ラナプラザ」事故ーバングラディッシュの地理的社会的条件を考察し
「エシカル」思考を育てる

3 貨幣・信用

1万円札をやぶる 「HAWAII」と印字された1ドル紙幣

7 公益サービス

沖島の人を移住させれば？

琵琶湖沖島 人口350人 信号なし 全員が船 幼小学校のみ
水道や電気のインフラ等で近江八幡市は3～4億円
(水道代も高い)

新井提案を意味づける

「切実性」「リアル感」があり「一言発言したい」物語

1 いろんな角度から考察できる

停電3日目「緊迫性」のある事態で「何からはじめるか」

2 一気に議論が広がる

「有料デリバリーに変えるとどうなる？」

4 一言言いたくなる

「競争に負けた商店街が閉まるのは仕方ない。でも何かおかしい気がする。それはなんだ」

5 「あたりまえ」をあえて問うことで本質にせまることができる

「お医者さんを信じて薬を飲めるのだろうか」

8 「意外性」から考察

「掃除のさぼり」と「税金のなぜ？」

「多面的・多角的」考察から「深い学び」へ ディスカッション

1 「家族の食料」か「田中さんを助けるか」 災害時の機会費用

6 「パートだからしかたないのか？」

働く意味や高齢者雇用、労働基準法などから議論できる

8 「さぼる人をせめればいいのか」

対案を考えることからフリーライダー、税金についても考えることができる

9 「自分たちで乗り越えるか」

「制度を使うべきか」から社会全体でリスクを分け合う意味を学ぶ

多面的・多角的に思考を揺らせる「体験活動」

- 3 「物々交換ゲーム」で貨幣の本質が腑に落ちる
- 6 「おかしい労働条件カード」を提示し「これは法律上OKかNGか」
楽しみながら、見方・考え方を習得できる
- 7 「存続会議」は「バスが不可欠な高齢者」「自転車通学の中学生」「市長」などそれぞれ利益の異なる人たちによる多様な人たちの意見を通して意思決定できる
- 8 「国家予算デザイナーゲーム」は市場（産業支援・景気対策）インフラ（道路・防災）生活（福祉・医療・教育）制度（警察・行政）の担当から考察し、何をすれば有効かを議論することで、それぞれの重要性が理解できる
- 10 「フューチャーデザイン」4つの基盤にいくら使うかを「現在世代」と「将来世代」の両方から議論すると今何をすべきが見えてくる